

# 曹洞俳壇

選・村松五灰子

## 月山の水の育てし今年米

山形県 工藤 竹治

評 出羽三山の一つ霊峰月山がっさんが生み出す霊水が育てたお米。

まことに美味しそうで炊きたての高雅な香りを廚に満たす。

齒切れ良く一氣に言い切れた潔さが新米振りである。

## 名月の後は堪能歌謡シヨ

新潟県 大橋 恒次

評 昨年の中秋は恵まれた立派なお月さまでした。芒むぎやしっかりお供物もして月を仰ぐ。心ゆくまで月を望む頃には月の酒が利いてくる。健康で明るい仲間の様子が見えるようだ。

◆丸刈りの坊やは二歳道元忌

神奈川県 大竹のり子

◆結願むすびの友の笑顔や菊の酒

神奈川県 堀田 耕一

◆一舟の水尾うすうすと月渡る

佐賀県 池内 淳子

◆深々と紅葉の中や永平寺

東京都 瀬沼 利雄

◆折からの雨の重みの夜業かな

埼玉県 中島 新一

◆子の名呼び母呼び尽きぬ雪崩あと

栃木県 小村 翠香

◆説法や芙蓉の雨のつづきたる

愛知県 松井 暁見

◆ひんやりと季節が動く朝の月

福岡県 安部 正和

◆もみぢ見を楽しみに待つ隠居かな

福島県 西木 甚

◆甲乙のつけがたき菜を問引きけり

静岡県 小泉八千代

\*選者吟

## 精一杯咲いているのに寒桜

五灰子

\*作句小見

明けましておめでとうございませす。

毎年近くの氏神さまへ初詣。そこには人の丈よりやや高い寒桜が咲いてくれますが余り振り返る人も居ません。本当に地味な小花の桜です。そのけなげさが好きです。

# 曹洞歌壇

選・長澤 ちづ

三日三晩なやんだ拳あげ句の下の句がカーテンの透き間にねむっていました 静岡県 土屋きみ江

評 歌を詠むときの推敲の機微を生き生きとつたえる一首。歌は思わぬ瞬間に出来上がる時があるが、その雰囲気を一カーテンの透き間にねむっていた」と表現して秀逸。かしこまって歌を詠むのではなく楽しんでいる作者だとわかる。

ほろほろと萩のこぼるる音さへも聞ゆるばかり庵のしづけさ 大阪府 高畑 良圓

評 秋の庵の静寂がしみじみと身にしみてくる。萩の散る音は眼前にしても聞こえぬほどのものだが、それを庵の中で耳澄ます作者、透徹した心の在りようが窺える。

◆ ストレスが溜るだらうかストレスを与へてつくるトマトを食はば 福岡県 三吉 誠

◆ 目を瞑り縄文式の家の中往時の人の声を聞かんと 東京都 野村 信廣

◆ 湯豆腐の煮立ちて寂し義母ははを看みに行きたる妻の今日も帰らず 秋田県 小田篤恭葉

◆ こんなにも魚いるのかこんなにも獲とつていいのか夜明けの漁港 青森県 中田 瑞穂

◆ 「一日も早い快復祈ります」差出人は百歳の姉 鳥取県 山本 浩一

◆ コンバインの音笑うかに耳に入る刈られ弾けるころよきとき 岩手県 六戸さとる

◆ 赤とんぼフロントガラスに激突す儂おこき命に心は痛む 広島県 小畑 宣之

◆ 見慣れたるさ庭の今宵うつくしき十五夜の月隈なく射したり 奈良県 横井 正子

◆ 畦道あぜみちに咲く紅の曼珠沙華父母の墓地へとみちびくごとく 秋田県 石川 京

◆ 本堂に居並び満つる檀徒衆香煙播らぎ読経はつづく 新潟県 今成 愛子

## \*選者詠

千円札の旧ふるき紙幣を差しだせば会話ふくらむ湖畔のパン屋に ちづ

## \*作歌小見

負荷を多少かけるほうが収穫物の糖度は増すとか、ユニークな発想の三吉さんの歌。百歳の姉上の祈りの言葉の重みを簡潔に表現する山本さん、秋の満月をすずやかに詠う横井さん、素朴な驚きと危惧を歌に託す中田さん、夫々个性的です。



## 大本山永平寺



時が過ぎるのは早いもので

新年を迎え、元旦の永平寺は静けさに包まれております。法堂では、一日から三日まで、今年一年の国土安穏や、皆さまの安心、そして火事や事故などの災いがないように願ひ、転読大般若のご祈禱が営まれます。世界が永らく平和にあらんことをお祈り申し上げます。

さて、毎月一日と十五日に、役寮はじめ修行僧は、道元禅師さまがおられます「承陽殿」と、福山禅師さまのおられる「大光明蔵」にご挨拶にまいります。その際に、福山禅師さまはよく「時が過ぎるのは早いもので云々」また「火の元には充分に気を付ける様に云々」と、おっしゃられます。

永平寺は、木造の建物が多く、廊下で繋がっていることもあり、火には気を使います。しかし、私にはこうも聞こえるのです。「心の火にもよくよく気をつけなければ、あつという間に大火事になってしまいますよ」と。

時はあつという間に過ぎ去り、取り戻すことも先取ることもできません。ですから、この二度とない一日一日を、共に火の用心でまいりたいものであります。

ご本山だより



## 大本山總持寺



### 新年を迎えて

清々しい新春を迎え、先ずは世界の平和と各被災地の復興、皆さまのご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

大本山總持寺の新年行持は、午前零時少し前に大梵鐘の撞き初めで始まり、仏殿での祝祷諷經・大祖堂での江川禪師さま御親修がしちよ元朝大祈禱が行われ、引き続き朝方まで賑やかに初詣祈禱が修されます。初詣祈禱は三が日間で例年二十万人を超える大勢の参拝者が訪れます。なお、初詣祈禱は三が日間、更に特別大祈禱が七日まで毎日行われます。

さて、六年後の二〇二四年に七百回大遠忌を迎える總持寺御開山・太祖瑩山禪師さまは、「自らのことを先とせず、ともかくあらゆる人を救済しなければならぬ」という誓願を早くに発され、ご生涯にわたりその実践に打ち込まれました。

新年頭に当たり、私たちも太祖さまの誓願をしつかり受け止め、互いに他を尊重し支え合う和合の社会になるよう、力を尽くしたいものです。

總持寺では、まもなく「冬安居とうあんご」と称される一〇〇日間の集中修行が解制（修了）の運びとなります。

まだまだ厳しい寒さが続きますが、首座しゆそを中心に冬安居を無事に成し遂げた修行僧たちの明るい表情が印象的です。